

プラスチック廃棄物問題の解決に向け、 イノベーティブなソリューションを加速

Alliance to End Plastic Waste (AEPW) 社長兼 CEO ジェイコブ・デユアー



プラスチック廃棄物の 環境への流出を止めるために

管理方法を誤ったプラスチック廃棄物の環境への流出は、現代の重要な問題となっており、この課題の対応に危機感が高まっている。2022年11月、175カ国が参集し、初めてプラスチック汚染に対処するための世界的な法制度の整備について議論がなされた。政府、産業界、市民社会の全てが、すぐにプラスチック廃棄物の環境への流出を止めなくてはならないと認識を同じくしている。

何十億人もの人々が、いまだ、日常生活において、新鮮で健康な食品の入手、公衆衛生、現代的なコミュニケーション、交通システム、

インフラ、そして雇用の面で、プラスチックに依存している。そして、環境負荷の少ない実用的で費用対効果の高い代替品がない限り、プラスチックは現代社会で使われ続ける。そのためにも、プラスチック廃棄物問題は取り組まなければならない課題である。

世界では、約1100万トンのプラスチック廃棄物が海に流出しており、誤った管理により、経済的価値にして年間1200億ドルが失われている。プラスチック廃棄物が環境中に流出してしまう大きな原因は、30億人以上の人々がいまだに管理された廃棄物処理のサービスを受けられていないことにある。このため、回収、分別、処理そしてリサイクルシステムの改善は、特にサービスが行き届い

ていない地域において、引き続き優先事項となっている。また、政府、産業界、消費者が協力し、過剰な廃棄物の削減、再利用の最大化や資源のリサイクルを行うことで、「作る・使う・捨てる」の直線的なモデルから循環型経済への移行を加速させる必要がある。

この移行はすでに始まっており、プラスチック廃棄物の削減のための意欲的な目標を掲げる国や産業は増えている。しかし、この移行を加速させるには何が必要なのか。

廃棄物管理ソリューションの 社会実装を世界中で支援

2019年の設立以来、私たちAEPWは、プラスチック廃棄物の課題には、万能的解決

プラスチック廃棄物をなくすための起業のサポートプラットフォームEXPO
(東京・渋谷 2022年9月開催)



AEPW 副社長ニコラス・コレシュ氏による冒頭挨拶



CLOMA 会長 澤田 道隆氏による基調講演

策がないことを実感してきた。プラスチック廃棄物をなくすためには、新しい運用方法、革新的な技術、新たな資金調達モデル、そしてパートナーシップなど、かつてない規模のイノベーションが必要だと考えている。

国際NPOとして私たちは、プラスチックのバリエーション、政府、各国のパートナー、そして地域コミュニティと協力し、環境中のプラスチック廃棄物をなくすための解決策の検証、開発を実行している。具体的には、廃棄物管理サービスへのアクセスが限られている、または全くない発展途上国では、私たちは、地域コミュニティが廃棄物循環型経済への移行のため、まずは、その基礎となるインフラ整備を支援している。また、先進国では、再利用やリサイクルを促進する技術やサービスを提供し、システムを強化する取り組みを行っている。

また、豊富な技術的専門知識により、私たちは事業のリスクを軽減し、成功の可能性を高めるための資金提供による社会貢献を行っている。現在までに、50以上のプロジェクトに1億7000万ドルの資金を提供しており、そのうちの約60%が東南アジアとインドで提供されている。そのほとんどは、現地のニーズにより対応した新しい廃棄物管理の運用モデルを検証するプロジェクトである。

その結果を踏まえて、より多くの人々を対象とする大規模なプログラムにスケールアップし、実行している。例えば、2022年5月にインドネシアで開始された官民合同のプロジェクトは、最終的にはジャワ島東部のマランで260万人に廃棄物管理のサービスを提供する。

もちろん、私たち単独では十分なプラスチック廃棄物の量を環境から取り除くことは不可能である。私たちは商業的に運用可能な廃棄物管理ソリューションを実証し、他の人や組織の投資により、世界中でその解決策が展開されることにより、規模の拡大を促し、永続的なインパクトをもたらすことが必要である。

スタートアップへの支援を通じた次世代ソリューション開発

また、革新的な技術をもっと市場に出す必要がある。その促進のために、『End Plastic Waste Innovation Platform (プラスチック廃棄物をなくすための起業のサポートプラットフォーム)』を設立した。2022年に3年目を迎えた本プログラムは、初期段階にある有望なスタートアップ企業の育成を目的としており、現在、東京を含む世界7カ所の拠点で展開してきている。すでに全世界で応募



2021年JICAとAEPWの戦略的連携協定署名式

のあった3000社のスタートアップ企業のうち、約150社がこのプログラムを修了した。その後、これらの企業は、1億米ドル以上の直接投資を呼び込むのに成功している。日本では、このプログラムを通じ、カマンとレコテックという2つのスタートアップ企業に資金提供をしている。

カマンが開発した「Megloo(メグルー)」は、テイクアウト容器の廃棄を減らすことを目的としたリユース可能な容器シェアリングサービスを提供する場である。さらに三井化学は、食品グレードのバイオベースの材料で作られ

たりリユース可能な容器の開発において、カマンを支援している。

レコテックは、廃棄プラスチックの発生からリサイクルしたプラスチックがメーカーへ供給されるまで、サプライチェーンの様々な廃棄処理の流れに関する情報を『見える化』し、管理するシステム『POOL』プロジェクトを展開している。三菱ケミカルは、新しいフィルムやプラスチック製品を製造するための高品質のリサイクル樹脂の生産において、レコテックと協働している。

また、商業化が可能な解決策の創出をさらに促進するため、私たちは、300万米ドルの賞金を授与する『AEPW Prize in Circular Solutions for Flexibles(軟包装に対するサーキュラーソリューション賞)』を設立した。私たちの目標は、新技術から商業化が可能なソリューションまで、プラスチック廃棄物管理に変革をもたらす次世代ソリューションを生み出すイノベーションの開発を支援することである。

継続的な改善、イノベーション そしてコラボレーションが重要

イノベーションとテクノロジーの世界的リーダーである日本は、特に都市部におけるプラスチック資源の循環を促進するソリューシ

ョンの開発において、重要な役割を果たすことが可能である。私たちは、世界の他の地域で再現できるソリューションを日本で見いだし資金提供したいという意欲を持っている。

今後、会員企業や日本政府、各自治体、そしてCLOMA、IGES、JWRF、JICAなどのパートナーと連携し、引き続き、有効なプロジェクトを日本国内で模索、実行していく。私たちは、幸運にも、ENEOS、稲畑産業、キリンホールディングス、住友化学、三井化学、三菱ケミカルグループといった、私たちのミッションに積極的に参画する日本の会員企業を筆頭に世界で約80社の会員企業と協働する機会に恵まれている。

プラスチック廃棄物をなくすことは可能である。

最後に、廃棄プラスチックをなくすためには、継続的な改善、イノベーションそしてコラボレーションを通して取り組まなければならないと考えている。

(日本語訳：AEPW日本統括 穴田武秀)

Alliance to End Plastic Waste(AEPW)について

廃棄プラスチックをなくす国際アライアンス(AEPW)は、廃棄プラスチックの削減に取り組むシンガポール本部を置く国際NPO団体(2019年設立、30カ国・50以上のプロジェクトを実施)。廃棄物管理システムの開発や強化のための革新的なソリューションに関するプロジェクトの実施や資金提供に注力している

<https://endplasticwaste.org/ja>